

# 高岡市民病院事業会計

## 1 業務状況

平成 29 年度の延患者数は 310,469 人で、前年度に比べ 9,494 人 (△3.0%) 減少している。そのうち入院患者数は 111,822 人で、前年度に比べ 803 人 (0.7%) 増加、外来患者数では 198,647 人で、前年度に比べ 10,297 人 (△4.9%) 減少している。

また、病床利用率は、前年度より 0.5 ポイント上昇し 76.4% となっている。

### (1) 業務実績

区 分	単位	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		
					増減C(A-B)	率C/B(%)	
病床数	床	401	401	476	0	—	
一般病床	床	333	333	408	0	—	
精神病床	床	50	50	50	0	—	
結核病床	床	12	12	12	0	—	
感染症病床	床	6	6	6	0	—	
診療日数	入院	日	365	365	366	0	—
	外来	日	244	243	243	1	0.4
延患者数	人	310,469	319,963	330,067	△ 9,494	△ 3.0	
年間入院患者数	人	111,822	111,019	113,359	803	0.7	
1日平均入院患者数	人	306.4	304.2	309.7	2.2	0.7	
年間外来患者数	人	198,647	208,944	216,708	△ 10,297	△ 4.9	
1日平均外来患者数	人	814.1	859.9	891.8	△ 45.8	△ 5.3	
病床利用率	%	76.4	75.9	65.2	0.5		
一般病床	%	82.8	83.5	68.6	△ 0.7		
精神病床	%	57.1	47.1	56.0	10.0		
結核病床	%	16.6	22.5	24.1	△ 5.9		
感染症病床	%	0.0	0.0	0.0	0.0		
職員数 (非常勤を除く)	人	480	477	493	3	0.6	
平均在院日数	日	12.8	12.4	13.1	0.4	3.2	

(注) 1 病床数は緩和ケア病棟の開設に伴い、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 17 日までは 476 床、平成 28 年 3 月 18 日から 3 月 31 日までは 443 床、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までは 3 階西病棟を包括的がん医療センターに改修したことに伴い 401 床として算出している。

2 病床利用率 =  $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$

3 職員数は各年度末現在

## (2) 科別入院患者数比較表

(単位:人・%)

区 分	入 院 患 者 数					1 日 平 均 患 者 数			
	29年度 A	28年度 B	27年度 C	前年度との比較		29年度 D	28年度 E	27年度	前年度との 比較 D-E
				増減 C(A-B)	率C/B				
内科	31,082	28,978	28,266	2,104	7.3	85.2	79.4	77.2	5.8
神経内科	4,896	5,415	6,260	△ 519	△ 9.6	13.4	14.8	17.1	△ 1.4
消化器内科	13,173	15,159	14,351	△ 1,986	△ 13.1	36.1	41.5	39.2	△ 5.4
精神神経科	10,438	8,604	10,250	1,834	21.3	28.6	23.6	28.0	5.0
小児科	1,413	1,602	2,011	△ 189	△ 11.8	3.9	4.4	5.5	△ 0.5
外科	11,979	12,210	11,003	△ 231	△ 1.9	32.8	33.5	30.1	△ 0.7
胸部・血管外科	2,765	2,429	3,053	336	13.8	7.6	6.7	8.3	0.9
整形外科	14,337	12,371	13,695	1,966	15.9	39.3	33.9	37.4	5.4
脳神経外科	6,273	5,904	6,239	369	6.3	17.2	16.2	17.0	1.0
皮膚科	57	0	0	57	皆増	0.2	0.0	0.0	0.2
形成外科	380	633	663	△ 253	△ 40.0	1.0	1.7	1.8	△ 0.7
泌尿器科	5,149	5,384	6,100	△ 235	△ 4.4	14.1	14.8	16.7	△ 0.7
産婦人科	4,851	6,689	6,714	△ 1,838	△ 27.5	13.3	18.3	18.3	△ 5.0
眼科	2,641	3,194	2,472	△ 553	△ 17.3	7.2	8.8	6.8	△ 1.6
耳鼻咽喉科	1,230	1,320	1,713	△ 90	△ 6.8	3.4	3.6	4.7	△ 0.2
放射線科	13	129	85	△ 116	△ 89.9	0.0	0.4	0.2	△ 0.4
歯科口腔外科	392	537	297	△ 145	△ 27.0	1.1	1.5	0.8	△ 0.4
麻酔科	240	150	142	90	60.0	0.7	0.4	0.4	0.3
リウマチ科	513	311	45	202	65.0	1.4	0.9	0.1	0.5
リハビリテーション科									
計	111,822 (365)	111,019 (365)	113,359 (366)	803	0.7	306.4	304.2	309.7	2.2

(注) ( ) 内は、各年度の診療日数である。

年間入院患者数は延 111,822 人で、前年度に比べ 803 人(0.7%)増加している。

1 日平均患者数は 306.4 人で、前年度に比べ 2.2 人増加している。1 日平均患者数のうち前年度に比べ増加したのは内科、整形外科、精神神経科等で、減少したのは消化器内科、産婦人科、眼科等である。

## (3) 科別外来患者数比較表

(単位：人・%)

区 分	外 来 患 者 数					1 日 平 均 患 者 数			
	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		29年度 D	28年度 E	27年度	前年度との 比較 D-E
				増減 C(A-B)	率C/B				
内科	36,610	36,958	36,513	△ 348	△ 0.9	150.0	152.1	150.3	△ 2.1
神経内科	6,127	5,757	5,703	370	6.4	25.1	23.7	23.5	1.4
消化器内科	16,186	18,299	20,718	△ 2,113	△ 11.5	66.3	75.3	85.3	△ 9.0
精神神経科	15,989	16,663	16,965	△ 674	△ 4.0	65.5	68.6	69.8	△ 3.1
小児科	3,539	3,876	4,170	△ 337	△ 8.7	14.5	16.0	17.2	△ 1.5
外科	10,912	11,780	11,892	△ 868	△ 7.4	44.7	48.5	48.9	△ 3.8
胸部・血管外科	3,015	3,055	3,920	△ 40	△ 1.3	12.4	12.6	16.1	△ 0.2
整形外科	15,850	16,897	18,170	△ 1,047	△ 6.2	65.0	69.5	74.8	△ 4.5
脳神経外科	5,905	5,738	5,883	167	2.9	24.2	23.6	24.2	0.6
皮膚科	6,431	6,822	7,150	△ 391	△ 5.7	26.4	28.1	29.4	△ 1.7
形成外科	4,497	5,059	5,183	△ 562	△ 11.1	18.4	20.8	21.3	△ 2.4
泌尿器科	9,911	10,426	11,367	△ 515	△ 4.9	40.6	42.9	46.8	△ 2.3
産婦人科	9,714	10,450	10,611	△ 736	△ 7.0	39.8	43.0	43.7	△ 3.2
眼科	10,254	10,051	8,514	203	2.0	42.0	41.4	35.0	0.6
耳鼻咽喉科	3,576	4,715	5,361	△ 1,139	△ 24.2	14.7	19.4	22.1	△ 4.7
放射線科	2,474	5,427	5,877	△ 2,953	△ 54.4	10.1	22.3	24.2	△ 12.2
歯科口腔外科	5,210	5,787	6,130	△ 577	△ 10.0	21.4	23.8	25.2	△ 2.4
麻酔科	2,656	2,592	2,788	64	2.5	10.9	10.7	11.5	0.2
リウマチ科	2,627	2,687	2,649	△ 60	△ 2.2	10.8	11.1	10.9	△ 0.3
リハビリテーション科	27,164	25,905	27,144	1,259	4.9	111.3	106.6	111.7	4.7
計	198,647 (244)	208,944 (243)	216,708 (243)	△ 10,297	△ 4.9	814.1	859.9	891.8	△ 45.8

(注) ( ) 内は、各年度の診療日数である。

年間外来患者数は延 198,647 人で、前年度に比べ 10,297 人(△4.9%)減少している。

1 日平均患者数は 814.1 人で、前年度に比べ 45.8 人減少している。1 日平均患者数のうち前年度に比べ増加したのはリハビリテーション科、神経内科、脳神経外科、眼科等で、減少したのは放射線科、消化器内科、耳鼻咽喉科等である。

#### (4) 科別入院診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	29年度 D	28年度 E	27年度	前年度との 比較 D-E
内科	1,663,990	1,593,294	1,490,267	70,696	4.4	53,535	54,983	52,723	△ 1,448
神経内科	200,849	203,440	229,067	△ 2,591	△ 1.3	41,023	37,570	36,592	3,453
消化器内科	606,903	686,231	638,183	△ 79,328	△ 11.6	46,072	45,269	44,470	803
精神神経科	181,437	157,469	163,844	23,968	15.2	17,382	18,302	15,985	△ 920
小児科	57,669	67,095	79,018	△ 9,426	△ 14.0	40,813	41,882	39,293	△ 1,069
外科	758,577	779,913	680,709	△ 21,336	△ 2.7	63,326	63,875	61,866	△ 549
胸部・血管外科	201,308	156,875	189,844	44,433	28.3	72,806	64,584	62,183	8,222
整形外科	796,314	701,059	710,944	95,255	13.6	55,543	56,670	51,913	△ 1,127
脳神経外科	270,580	251,673	251,033	18,907	7.5	43,134	42,628	40,236	506
皮膚科	1,778	0	0	1,778	皆増	31,200	0	0	31,200
形成外科	17,278	30,839	28,047	△ 13,561	△ 44.0	45,468	48,718	42,303	△ 3,250
泌尿器科	271,862	274,899	302,544	△ 3,037	△ 1.1	52,799	51,058	49,597	1,741
産婦人科	341,395	456,180	445,062	△ 114,785	△ 25.2	70,376	68,199	66,289	2,177
眼科	218,342	255,266	220,547	△ 36,924	△ 14.5	82,674	79,921	89,218	2,753
耳鼻咽喉科	61,140	64,507	79,547	△ 3,367	△ 5.2	49,707	48,869	46,437	838
放射線科	1,345	6,850	3,754	△ 5,505	△ 80.4	103,445	53,101	44,160	50,344
歯科口腔外科	21,055	26,963	16,211	△ 5,908	△ 21.9	53,713	50,210	54,583	3,503
麻酔科	17,574	14,717	12,953	2,857	19.4	73,227	98,111	91,219	△ 24,884
リウマチ科	21,690	14,460	1,840	7,230	50.0	42,280	46,495	40,880	△ 4,215
リハビリテーション科									
計	5,711,086	5,741,730	5,543,414	△ 30,644	△ 0.5	51,073	51,718	48,901	△ 645

年間入院診療収入は5,711,086千円で、前年度に比べ30,644千円(△0.5%)減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は51,073円で、前年度に比べ645円減少している。前年度に比べ増加したのは放射線科、皮膚科、胸部血管外科等で、減少したのは麻酔科、リウマチ科、形成外科等である。

## (5) 科別外来診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	29年度 D	28年度 E	27年度	前年度との 比較 D-E
内科	613,881	604,830	582,832	9,051	1.5	16,768	16,365	15,962	403
神経内科	34,793	35,473	38,075	△ 680	△ 1.9	5,679	6,162	6,676	△ 483
消化器内科	190,921	207,339	303,126	△ 16,418	△ 7.9	11,795	11,331	14,631	464
精神神経科	73,873	80,544	84,849	△ 6,671	△ 8.3	4,620	4,834	5,001	△ 214
小児科	35,834	35,278	29,910	556	1.6	10,126	9,102	7,173	1,024
外科	316,963	280,031	291,054	36,932	13.2	29,047	23,772	24,475	5,275
胸部・血管外科	32,745	35,163	36,857	△ 2,418	△ 6.9	10,861	11,510	9,402	△ 649
整形外科	116,656	122,352	124,484	△ 5,696	△ 4.7	7,360	7,241	6,851	119
脳神経外科	54,597	49,111	52,608	5,486	11.2	9,246	8,559	8,942	687
皮膚科	13,335	14,839	16,113	△ 1,504	△ 10.1	2,073	2,175	2,254	△ 102
形成外科	18,002	20,071	22,026	△ 2,069	△ 10.3	4,003	3,967	4,250	36
泌尿器科	170,211	131,564	138,240	38,647	29.4	17,174	12,619	12,162	4,555
産婦人科	89,484	82,973	95,759	6,511	7.8	9,212	7,940	9,024	1,272
眼科	133,386	111,144	100,201	22,242	20.0	13,008	11,058	11,769	1,950
耳鼻咽喉科	27,749	34,969	40,288	△ 7,220	△ 20.6	7,760	7,417	7,515	343
放射線科	58,293	110,901	119,762	△ 52,608	△ 47.4	23,562	20,435	20,378	3,127
歯科口腔外科	37,846	42,342	48,205	△ 4,496	△ 10.6	7,264	7,317	7,864	△ 53
麻酔科	11,798	11,333	11,791	465	4.1	4,442	4,372	4,229	70
リウマチ科	60,190	63,514	61,131	△ 3,324	△ 5.2	22,912	23,638	23,077	△ 726
リハビリテーション科	65,754	65,499	68,768	255	0.4	2,421	2,528	2,533	△ 107
計	2,156,311	2,139,270	2,266,079	17,041	0.8	10,855	10,238	10,457	617

年間外来診療収入は2,156,311千円で、前年度に比べ17,041千円(0.8%)増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は10,855円で、前年度に比べ617円増加している。前年度に比べ増加したのは外科、泌尿器科、放射線科等で、減少したのはリウマチ科、胸部・血管外科、神経内科等である。

## (6) 手術及び検査状況

(単位：件・%)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
手術件数	3,940	3,985	3,728	△ 45	△ 1.1
検査件数	1,963,470	1,944,677	1,847,773	18,793	1.0
X線件数	62,879	67,211	67,466	△ 4,332	△ 6.4

(注) X線件数のうちエコー件数は除く。

## (7) 処方箋の状況

(単位：枚・%)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
処方箋枚数	95,119	99,915	103,810	△ 4,796	△ 4.8
うち院外処方箋枚数	88,889	93,321	96,444	△ 4,432	△ 4.7
院外処方箋率	93.5	93.4	92.9	0.1	

## (8) 調剤の状況

(単位：件・%)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
入院患者調剤件数	83,573	75,205	75,439	8,368	11.1
外来患者調剤件数	20,400	17,920	21,554	2,480	13.8
計	103,973	93,125	96,993	10,848	11.6

## (9) 給食の状況

(単位：食・%)

区 分	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
一般食数	169,856	164,878	159,463	4,978	3.0
特別食数	97,703	100,394	116,906	△ 2,691	△ 2.7
計	267,559	265,272	276,369	2,287	0.9

(注) 特別食はエネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食などである。

## (10) 部門別100床当たり職員数

(単位：人・%)

区 分	29年度		28年度		27年度		前年度との比較		全国平均 (28年度)
	職員数	100床当たり 職員数 A	職員数	100床当たり 職員数 B	職員数	100床当たり 職員数	増減 C(A-B)	率 C/B	
医師	56	14.0	53	13.2	57	12.0	0.8	6.1	19.5
看護部門	326	81.3	327	81.5	322	67.8	△ 0.2	△ 0.2	88.9
薬剤部門	15	3.7	15	3.7	14	2.9	0.0	—	4.3
事務部門	23	5.7	20	5.0	20	4.2	0.7	14.0	13.1
給食部門	4	1.0	5	1.2	21	4.4	△ 0.2	△ 16.7	3.3
放射線部門	17	4.2	16	4.0	16	3.4	0.2	5.0	4.2
検査部門	18	4.5	20	5.0	20	4.2	△ 0.5	△ 10.0	5.7
その他職員	22	5.5	24	6.0	23	4.8	△ 0.5	△ 8.3	11.6
計	481	119.9	480	119.6	493	103.7	0.3	0.3	150.6

(注) 1 部門別100床当たり職員数 =  $\frac{\text{部門別職員数}}{\text{病床数}} \times 100$ 

2 病床数は緩和ケア病棟の開設に伴い、平成27年4月1日から平成28年3月17日までを476床、平成28年3月18日から3月31日までを443床、平成28年4月1日から平成29年3月31日までを3階西病棟を包括的がん医療センターに改修した事に伴い401床として算出している。

3 医師数には、臨時的任用医師を含まない。

100床当たりの職員数は119.9人で、前年度に比べ0.3人(0.3%)増加している。

## (11) 職員（医師・看護部門）1人1日当たり患者数・診療収入比較表

(単位：人・円・%)

区 分			29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		全国平均 (28年度)
						増減C(A-B)	率C/B	
患者数	医 師	入 院	4.2	4.2	4.3	0.0	—	3.3
		外 来	7.4	8.0	8.1	△ 0.6	△ 7.5	5.6
		計	11.6	12.2	12.4	△ 0.6	△ 4.9	8.9
	看護部門	入 院	0.8	0.9	0.9	△ 0.1	△ 11.1	0.7
		外 来	1.5	1.6	1.7	△ 0.1	△ 6.3	1.2
		計	2.3	2.5	2.6	△ 0.2	△ 8.0	1.9
診療収入		医 師	294,946	300,400	293,502	△ 5,454	△ 1.8	244,018
		看護部門	58,039	61,176	61,353	△ 3,137	△ 5.1	54,338

$$(注) 1 \quad \text{職員1人1日当たり患者数} = \frac{\text{年間延べ入院（又は外来）患者数}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$$

2 「年間延医師（又は看護部門）数」は、年度中において在籍した医師（臨時的任用職員及び非常勤職員を含む）の延数〔又は看護部門（非常勤職員含む）の延数〕である。

$$3 \quad \text{職員1人1日当たり診療収入} = \frac{\text{入院・外来診療収入}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$$

職員1人1日当たりの患者数は、医師部門の入院と外来の合計人数が11.6人で、前年度に比べ0.6人（△4.9%）の減少、看護部門の入院と外来の合計人数は2.3人で、前年度に比べ0.2人（△8.0%）の減少となっている。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師部門で294,946円で、前年度に比べ5,454円（△1.8%）の減少、看護部門では58,039円で、前年度に比べ3,137円（△5.1%）の減少となっている。

## (12) 検査の状況

区 分	単位	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		全国平均 (28年度)
					増減C(A-B)	率C/B(%)	
患者100人当たりの検査件数	件	632.4	607.8	559.8	24.6	4.0	556.2
検査技師1人当たりの検査件数	件	109,082	97,234	92,389	11,848	12.2	75,859
検査技師1人当たりの検査収入	千円	31,607	29,579	29,176	2,028	6.9	30,966

$$(注) 1 \quad \text{患者100人当たりの検査件数} = \frac{\text{年間検査件数}}{\text{年間延入院・外来患者数}} \times 100$$

$$2 \quad \text{検査技師1人当たりの検査収入} = \frac{\text{入院・外来検査収入}}{\text{検査技師数}}$$

患者100人当たりの検査件数は632.4件で、前年度に比べ24.6件(4.0%)増加している。

検査技師1人当たりの検査件数は109,082件で、前年度に比べ11,848件(12.2%)、検査収入は31,607千円で、前年度に比べ2,028千円(6.9%)とそれぞれ増加している。

## (13) 材料費

区 分	単位	29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		全国平均 (28年度)		
					増減 C(A-B)	率 C/B(%)			
薬品費	薬品費	千円	1,066,259	964,298	1,023,939	101,961	10.6		
	経常費用に占める割合	%	11.9	10.3	10.9	1.6		11.2	
	医業収益に対する割合	%	13.1	11.8	12.6	1.3		12.9	
	患者1人1日当たり薬品費	円	3,434	3,013	3,102	421	14.0	3,782	
	薬品使用効率	投薬	%	76.2	76.3	88.8	△0.1		91.8
		注射	%	72.0	64.1	68.1	7.9		84.2
計		%	72.6	66.0	73.0	6.6		86.2	
診療材料費	診療材料費	千円	866,741	874,898	795,629	△8,157	△0.9		
	経常費用に占める割合	%	9.7	9.4	8.4	0.3		10.4	
	医業収益に対する割合	%	10.6	10.7	9.8	△0.1		12.0	
給食材料費	給食材料費	千円	69,904	66,545	68,909	3,359	5.0		
	経常費用に占める割合	%	0.8	0.7	0.7	0.1		0.4	
	医業収益に対する割合	%	0.9	0.8	0.8	0.1		0.5	
	患者1人1日当たり給食材料費	円	625	599	608	26	4.3	402	
	患者1人1日当たり給食収入	円	1,660	1,673	1,689	△13	△0.8	1,532	
計	千円	2,002,904	1,905,741	1,888,477	97,163	5.1			

(注) 1 薬品使用効率 =  $\frac{\text{薬品収入}}{\text{薬品費}} \times 100$

2 診療材料費には、医療用消耗備品を含む

## ア 薬品費

薬品費の決算額は1,066,259千円で、前年度に比べ101,961千円(10.6%)増加している。  
患者1人1日当たりの薬品費は3,434円で、前年度に比べ421円(14.0%)増加している。  
また、経常費用に占める割合は11.9%で、前年度に比べ1.6ポイント、医業収益に対する割合は13.1%で1.3ポイントそれぞれ上昇している。

## イ 診療材料費

診療材料費の決算額は866,741千円で、前年度に比べ8,157千円(△0.9%)減少している。  
また、経常費用に占める割合は9.7%で、前年度に比べ0.3ポイント上昇、医業収益に対する割合は10.6%で0.1ポイント低下している。

## ウ 給食材料費

給食材料費の決算額は69,904千円で、前年度に比べ3,359千円(5.0%)増加している。  
入院患者1人1日当たりの給食材料費は625円で、前年度に比べ26円(4.3%)増加、給食収入は1,660円で、前年度に比べ13円(△0.8%)減少している。  
また、経常費用に占める割合は0.8%で、医業収益に対する割合は0.9%と、前年度に比べ0.1ポイントそれぞれ上昇している。



## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出（消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 医業収益	8,441,331	8,175,667		△ 265,664	96.9	仮受消費税 13,883
	2 医業外収益	916,843	908,676		△ 8,167	99.1	仮受消費税 1,864
	3 特別利益	7,401	7,400		△ 1	100.0	
	計	9,365,575	9,091,743		△ 273,832	97.1	仮受消費税 15,747
支 出	1 医業費用	8,771,918	8,656,861	0	115,057	98.7	仮払消費税 176,855
	2 医業外費用	350,852	333,646	0	17,206	95.1	
	3 特別損失	7,541	7,400	0	141	98.1	
	計	9,130,311	8,997,907	0	132,404	98.5	仮払消費税 176,855
収支差引額		235,264	93,836				

#### ア 収益的収入

予算額 9,365,575 千円に対し、決算額は 9,091,743 千円(仮受消費税 15,747 千円を含む)で、執行率 97.1%、273,832 千円の収入減となっている。

これは主に、医業収益の減少によるものである。

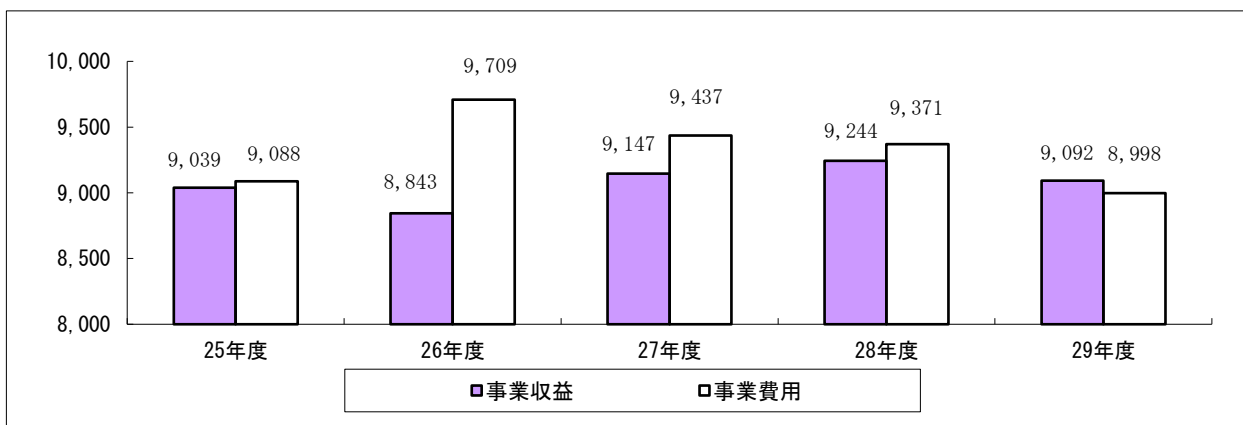
#### イ 収益的支出

予算額 9,130,311 千円に対し、決算額は 8,997,907 千円(仮払消費税 176,855 千円を含む)で、執行率 98.5%、132,404 千円の不用額が生じている。

これは主に、医業費用の減少によるものである。

### 収益的収入及び支出決算額の推移

(単位：百万円)



(2) 資本的収入及び支出(消費税込み)

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 企業債	140,300	67,700		△ 72,600	48.3	
	2 出資金	330,122	330,122		0	100.0	
	3 固定資産売却収入	1,050	740		△ 310	70.5	
	計	471,472	398,562		△ 72,910	84.5	
支 出	1 建設改良費	185,406	123,247	58,320	3,839	66.5	仮払消費税 9,129
	2 企業債償還金	1,064,952	1,064,952	0	0	100.0	
	3 投資及び出資金	1,050	966	0	84	92.0	
	計	1,251,408	1,189,165	58,320	3,923	95.0	仮払消費税 9,129
収支差引額		△ 779,936	△ 790,603				

ア 資本的収入

予算額 471,472 千円に対し、決算額は 398,562 千円で、執行率 84.5%、72,910 千円の収入減となっている。

これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ 資本的支出

予算額 1,251,408 千円に対し、決算額は 1,189,165 千円（仮払消費税 9,129 千円を含む）で、執行率 95.0%となっており、翌年度繰越額 58,320 千円を差し引くと 3,923 千円の不用額が生じている。

これは主に、建設改良費が減少したことによるものである。

ウ 補てん財源

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 790,603 千円は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金 790,415 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 188 千円で補てんされている。

(3) その他の事項

ア 企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算の定めに従って行われていた。

イ 一時借入金

一時借入金の限度額は1,000,000千円となっているが、借り入れはなかった。

ウ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

この経費は職員給与費及び交際費であり、他の経費との間における流用はなかった。

エ 他会計からの補助金

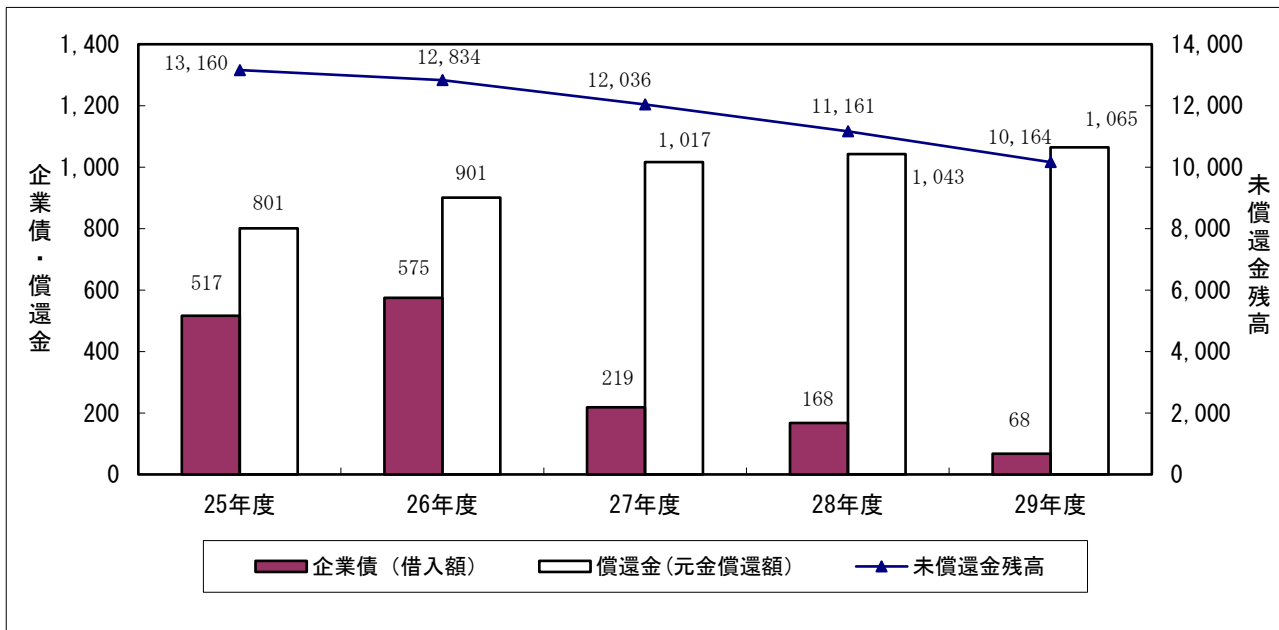
一般会計からの補助金は、予算の範囲内であった。

オ たな卸資産の購入状況

予算に定められたたな卸資産の購入限度額は1,179,631千円で、購入額はその範囲内であった。

企業債（借入額）、償還金（元金償還額）及び未償還金残高の推移

（単位：百万円）



### 3 経営状況

経営状況は、下表のとおりである。

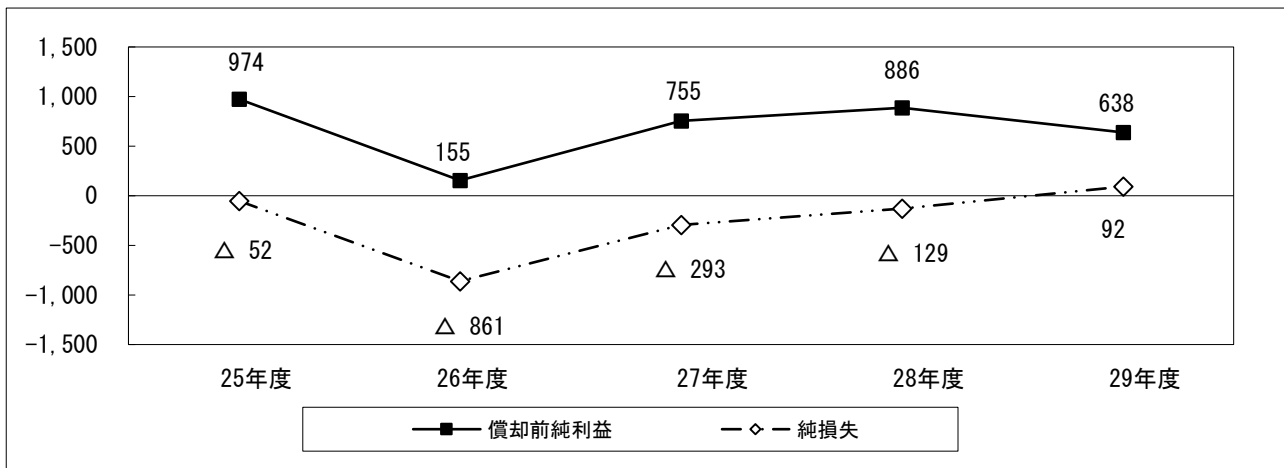
#### 損益比較表

(単位:千円・%)

区 分		29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
収	医業収益 (ア)	8,161,784	89.9	8,185,307	8,125,623	△ 23,523	△ 0.3
	医業外収益 (イ)	906,812	10.0	878,054	844,003	28,758	3.3
	看護専門学校収益(ウ)	0	0.0	164,455	160,610	△ 164,455	皆減
	小計	9,068,596	99.9	9,227,816	9,130,236	△ 159,220	△ 1.7
益	特別利益 (エ)	7,400	0.1	0	0	7,400	皆増
	計	9,075,996	100.0	9,227,816	9,130,236	△ 151,820	△ 1.6
費	医業費用 (オ)	8,480,006	94.4	8,674,887	8,725,550	△ 194,881	△ 2.2
	医業外費用 (カ)	496,896	5.5	520,610	536,526	△ 23,714	△ 4.6
	看護専門学校費用(キ)	0	0.0	161,394	157,531	△ 161,394	皆減
	小計	8,976,902	99.9	9,356,891	9,419,607	△ 379,989	△ 4.1
	特別損失 (ク)	7,400	0.1	0	3,658	7,400	皆増
	計	8,984,302	100.0	9,356,891	9,423,265	△ 372,589	△ 4.0
医業収支 (ア) - (オ) a		△ 318,222		△ 489,580	△ 599,927	171,358	35.0
医業外収支 (イ) - (カ) b		409,916		357,444	307,477	52,472	14.7
看護専門学校収支(ウ) - (キ) c		0		3,061	3,079	△ 3,061	皆減
経常収支 (a+b+c) d		91,694		△ 129,075	△ 289,371	220,769	171.0
特別収支 (エ) - (ク) e		0		0	△ 3,658	0	—
当年度純利益(△損失) d + e		91,694		△ 129,075	△ 293,029	220,769	171.0

#### 償却前純利益と純損失の推移

(単位:百万円)



収益 9,075,996 千円に対し、費用は 8,984,302 千円となっており、91,694 千円の当年度純利益が生じている。

前年度に比べ 220,769 千円 (171.0%) の増益となっている。

## (1) 収益の部

収益の内訳は、下表のとおりである。

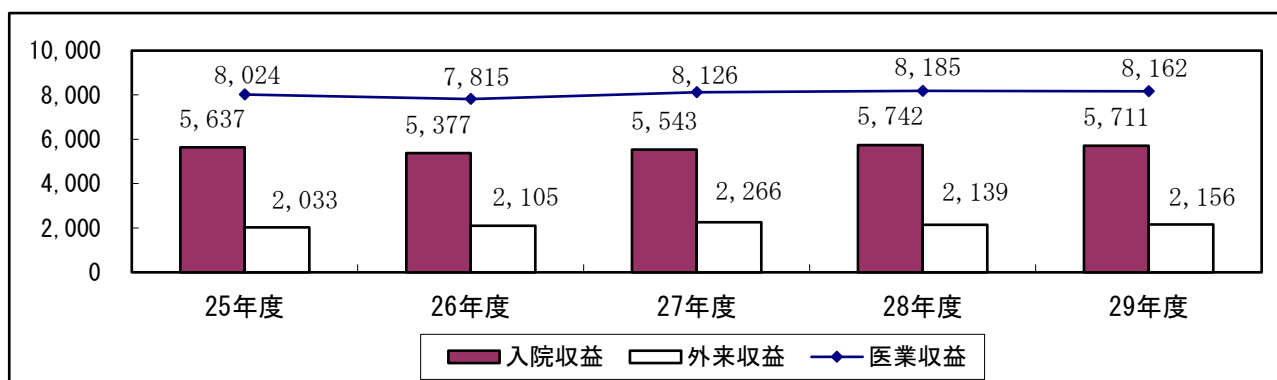
収益内訳表

(単位:千円・%)

区 分	29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較		
	金額 A	構成比			増減C (A-B)	率C/B	
収           益	1 医業収益	8,161,784	89.9	8,185,307	8,125,623	△ 23,523	△ 0.3
	(1)入院収益	5,711,086	62.9	5,741,730	5,543,414	△ 30,644	△ 0.5
	(2)外来収益	2,156,311	23.8	2,139,270	2,266,079	17,041	0.8
	(3)その他医業収益	294,387	3.2	304,307	316,130	△ 9,920	△ 3.3
	2 医業外収益	906,812	10.0	878,054	844,003	28,758	3.3
	(1)受取利息及び配当金	0	0.0	0	0	0	—
	(2)他会計補助金	865,570	9.5	820,302	778,125	45,268	5.5
	(3)長期前受金戻入	16,601	0.2	32,121	38,497	△ 15,520	△ 48.3
	(4)その他医業外収益	24,641	0.3	25,631	27,381	△ 990	△ 3.9
	3 看護専門学校収益	0	0.0	164,455	160,610	△ 164,455	皆減
	(1)他会計補助金	0	0.0	158,397	154,447	△ 158,397	皆減
	(2)その他医業外収益	0	0.0	6,058	6,163	△ 6,058	皆減
	4 特別利益	7,400	0.1	0	0	7,400	皆増
計	9,075,996	100.0	9,227,816	9,130,236	△ 151,820	△ 1.6	

医業収益の推移

(単位:百万円)



### ア 医業収益

医業収益は8,161,784千円で、前年度に比べ23,523千円(△0.3%)減少している。これは主に、外来収益が増加したものの、入院収益が減少したことによるものである。

### イ 医業外収益

医業外収益は906,812千円で、前年度に比べ28,758千円(3.3%)増加している。これは主に、他会計補助金が増加したことによるものである。

### ウ 看護専門学校収益

看護専門学校収益は0円で、前年度に比べ164,455千円(皆減)減少している。これは、平成28年度末をもって閉校したことによるものである。

### エ 特別利益

特別利益は7,400千円で、前年度に比べ7,400千円(皆増)増加している。これは、損害賠償請求に係る和解金支払いに対する保険金収入によるものである。

(2) 費用の部

費用の内訳は、下表のとおりである。

費用内訳表

(単位:千円・%)

区 分	29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較		
	金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B	
費用	1 医業費用	8,480,006	94.4	8,674,887	8,725,550	△ 194,881	△ 2.2
	(1) 給与費	4,670,047	52.0	4,471,678	4,531,999	198,369	4.4
	(2) 材料費	2,002,904	22.3	1,905,741	1,888,477	97,163	5.1
	薬品費	1,066,259	11.8	964,298	1,023,939	101,961	10.6
	診療材料費	860,366	9.6	867,594	786,360	△ 7,228	△ 0.8
	給食材料費	69,904	0.8	66,545	68,909	3,359	5.0
	医療消耗備品	6,375	0.1	7,304	9,269	△ 929	△ 12.7
	(3) 経費	1,231,438	13.7	1,254,715	1,212,516	△ 23,277	△ 1.9
	(4) 減価償却費	546,659	6.1	1,014,712	1,048,359	△ 468,053	△ 46.1
	(5) その他	28,958	0.3	28,041	44,199	917	3.3
	2 医業外費用	496,896	5.5	520,610	536,526	△ 23,714	△ 4.6
	(1) 支払利息	208,491	2.3	225,337	242,036	△ 16,846	△ 7.5
	(2) 長期前払消費税償却	26,728	0.3	26,728	26,728	0	—
	(3) その他医業外費用	261,677	2.9	268,545	267,762	△ 6,868	△ 2.6
	3 看護専門学校費用	0	0.0	161,394	157,531	△ 161,394	皆減
	(1) 給与費	0	0.0	147,470	142,825	△ 147,470	皆減
	(2) 経費	0	0.0	13,924	14,706	△ 13,924	皆減
	4 特別損失	7,400	0.1	0	3,658	7,400	皆増
	(1) 退職給付引当金繰入額	0	0.0	0	3,658	0	—
	(2) その他特別損失	7,400	0.1	0	0	7,400	皆増
計	8,984,302	100.0	9,356,891	9,423,265	△ 372,589	△ 4.0	

ア 医業費用

医業費用は8,480,006千円で、前年度に比べ194,881千円(△2.2%)減少している。  
これは主に、給与費が増加したものの、減価償却費が減少したことによるものである。

イ 医業外費用

医業外費用は496,896千円で、前年度に比べ23,714千円(△4.6%)減少している。  
これは主に、支払利息が減少したことによるものである。

ウ 看護専門学校費用

看護専門学校費用は0円で、前年度に比べ161,394千円(皆減)減少している。  
これは、平成28年度末をもって閉校したことによるものである。

エ 特別損失

特別損失は7,400千円で、前年度に比べ7,400千円(皆増)増加している。  
これは、損害賠償請求に係る和解金の支払いによるものである。

#### 4 財政状況

資産、負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

主要勘定貸借比較表

(単位：千円・%)

区 分		29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較		
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B	
借 方	資	1 固定資産	8,992,176	76.1	9,454,344	10,250,924	△ 462,168	△ 4.9
	産	2 流動資産	2,828,794	23.9	2,729,478	2,710,538	99,316	3.6
	資産合計		11,820,970	100.0	12,183,822	12,961,462	△ 362,852	△ 3.0
貸 方	負 債	3 固定負債	9,071,628	76.7	10,096,528	11,000,596	△ 1,024,900	△ 10.2
		4 流動負債	2,314,843	19.6	2,058,009	2,093,675	256,834	12.5
		5 繰延収益	325,578	2.8	342,180	374,301	△ 16,602	△ 4.9
		負債合計	11,712,049	99.1	12,496,717	13,468,572	△ 784,668	△ 6.3
	資 本	6 資本金	11,417,531	96.6	11,087,410	10,764,121	330,121	3.0
		7 剰余金	△ 11,308,610	△ 95.7	△ 11,400,305	△ 11,271,231	91,695	0.8
		資本合計	108,921	0.9	△ 312,895	△ 507,110	421,816	134.8
負債・資本合計		11,820,970	100.0	12,183,822	12,961,462	△ 362,852	△ 3.0	

##### (1) 資産の部

資産の内訳は、下表のとおりである。

資産内訳表

(単位：千円・%)

区 分		29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較		
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B	
借 方	資 産	1 固定資産	8,992,176	76.1	9,454,344	10,250,924	△ 462,168	△ 4.9
		(1)有形固定資産	8,906,231	75.4	9,341,897	10,112,197	△ 435,666	△ 4.7
		土地	1,117,442	9.5	1,117,442	1,117,442	0	—
		建物	6,682,827	56.6	6,892,392	7,440,864	△ 209,565	△ 3.0
		構築物	24,218	0.2	24,218	28,372	0	—
		器械及び備品	1,080,775	9.1	1,305,393	1,521,584	△ 224,618	△ 17.2
		車両	969	0.0	2,452	3,935	△ 1,483	△ 60.5
		(2)投資	85,945	0.7	112,447	138,727	△ 26,502	△ 23.6
		長期前払消費税	80,186	0.7	106,914	133,642	△ 26,728	△ 25.0
		その他投資	5,759	0.0	5,533	5,085	226	4.1
		2 流動資産	2,828,794	23.9	2,729,478	2,710,538	99,316	3.6
		(1)現金及び預金	1,424,576	12.0	1,291,953	1,147,347	132,623	10.3
		(2)未収金	1,367,411	11.6	1,392,954	1,529,437	△ 25,543	△ 1.8
		(3)貸倒引当金	△ 3,487	△ 0.0	△ 3,487	△ 4,353	0	—
		(4)貯蔵品	40,045	0.3	47,899	37,916	△ 7,854	△ 16.4
(5)前払金	249	0.0	159	191	90	56.6		
資産合計		11,820,970	100.0	12,183,822	12,961,462	△ 362,852	△ 3.0	

ア 固定資産

固定資産は8,992,176千円で、前年度に比べ462,168千円(△4.9%)減少している。  
これは主に、建物、器械及び備品がそれぞれ減少したことによるものである。

イ 流動資産

流動資産は2,828,794千円で、前年度に比べ99,316千円(3.6%)増加している。  
これは主に、未収金が減少したものの、現金及び預金が増加したことによるものである。  
なお、医業未収金のうち、クレジットカード分は8,820千円で、前年度に比べ1,772千円(△16.7%)減少している。

また、貯蔵品の状況について、たな卸検査を実施したところ、適正に管理されていた。

有形固定資産明細書

(単位：千円)

資産の種類	年度当初 現在高	当年度 増加額	当年度 減少額	年度末 現在高	減価償却累計額			年度末 償却未済高
					当年度 増加額	当年度 減少額	累計	
土地	1,117,442	0	0	1,117,442	0	0	0	1,117,442
建物	17,658,229	55,075	0	17,713,304	264,640	0	11,030,477	6,682,827
構築物	484,361	0	0	484,361	0	0	460,143	24,218
器械及び備品	6,336,969	59,043	49,214	6,346,798	280,537	46,090	5,266,023	1,080,775
車両	11,138	0	0	11,138	1,483	0	10,169	969
合計	25,608,139	114,118	49,214	25,673,043	546,660	46,090	16,766,812	8,906,231

未収金の状況

(単位：千円)

区分	29年度末現在高			28年度末現在高 B	増減 A-B
	過年度分	29年度分	計 A		
医業未収金	47,357 (0)	1,293,549 (8,820)	1,340,906 (8,820)	1,374,214 (10,592)	△ 33,308 (△ 1,772)
医業外未収金	0	26,505	26,505	18,740	7,765
合計	47,357	1,320,054	1,367,411	1,392,954	△ 25,543

(注) 1 29年度分医業未収金のうち、保険者負担分は2月調定分、3月調定分を含む(調定から2か月後に入金)

2 ( )内は、クレジットカード分



(2) 負債及び資本の部

負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

負債・資本内訳表

(単位：千円・%)

区 分	29年度		28年度 B	27年度	前年度との比較		
	金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B	
貸 方	1 固定負債	9,071,628	76.7	10,096,528	11,000,596	△ 1,024,900	△ 10.2
	(1)企業債	9,071,628	76.7	10,096,528	10,993,280	△ 1,024,900	△ 10.2
	(2)引当金	0	0.0	0	7,316	0	—
	2 流動負債	2,314,843	19.6	2,058,009	2,093,675	256,834	12.5
	(1)企業債	1,092,600	9.2	1,064,952	1,043,008	27,648	2.6
	(2)未払金	929,597	7.9	713,801	761,782	215,796	30.2
	(3)引当金	259,671	2.2	250,761	255,651	8,910	3.6
	(4)預り金	32,975	0.3	28,495	33,234	4,480	15.7
	3 繰延収益	325,578	2.8	342,180	374,301	△ 16,602	△ 4.9
	(1)長期前受金	796,878	6.8	796,878	796,878	0	—
	(2)長期前受金収益化累計額	△ 471,300	△ 4.0	△ 454,698	△ 422,577	△ 16,602	△ 3.7
	負債合計	11,712,049	99.1	12,496,717	13,468,572	△ 784,668	△ 6.3
	資 本	4 資本金	11,417,531	96.6	11,087,410	10,764,121	330,121
(1)自己資本金		11,417,531	96.6	11,087,410	10,764,121	330,121	3.0
5 剰余金		△ 11,308,610	△ 95.7	△ 11,400,305	△ 11,271,231	91,695	0.8
(1)欠損金		△ 11,308,610	△ 95.7	△ 11,400,305	△ 11,271,231	91,695	0.8
当年度未処理欠損金		△ 11,308,610	△ 95.7	△ 11,400,305	△ 11,271,231	91,695	0.8
資本合計	108,921	0.9	△ 312,895	△ 507,110	421,816	134.8	
負債・資本合計	11,820,970	100.0	12,183,822	12,961,462	△ 362,852	△ 3.0	

ア 固定負債

固定負債は9,071,628千円で、前年度に比べ1,024,900千円(△10.2%)減少している。  
これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債

流動負債は2,314,843千円で、前年度に比べ256,834千円(12.5%)増加している。  
これは主に、未払金が増加したことによるものである。

ウ 繰延収益

繰延収益は325,578千円で、前年度に比べ16,602千円(△4.9%)減少している。

エ 資本金

資本金は11,417,531千円で、前年度に比べ330,121千円(3.0%)増加している。

オ 剰余金

剰余金は△11,308,610千円で、前年度に比べ91,695千円(0.8%)増加している。  
これは、当年度未処理欠損金が減少したことによるものである。

## 5 他会計補助金等の状況

一般会計からの補助金等については、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		29年度 A	28年度 B	27年度	前年度との比較		
					増減C(A-B)	率C/B	
収益的 収入	補助 金	救急医療	68,537	68,537	68,537	0	—
		企業債償還利子	138,110	149,147	160,057	△ 11,037	△ 7.4
		結核病床運営費	38,439	24,872	26,174	13,567	54.5
		精神病床運営費	178,243	152,440	147,589	25,803	16.9
		高度医療	296,455	292,405	282,648	4,050	1.4
		特殊診療市補助金	0	0	19,374	0	—
		感染症病床運営費	30,802	30,802	0	0	—
		医師等研究研修費	13,120	11,196	20,738	1,924	17.2
		共済費追加費用	23,749	18,903	32,316	4,846	25.6
		基礎年金拠出金公的負担経費	105,815	103,819	52,000	1,996	1.9
		児童手当及び子ども手当	19,725	19,270	18,675	455	2.4
		認知症疾患医療センター運営費	2,000	0	0	2,000	皆増
		看護専門学校運営費	0	158,397	154,447	△ 158,397	皆減
		病院群輪番制運営費	15,089	15,856	15,345	△ 767	△ 4.8
		産科医等確保支援事業	566	323	585	243	75.2
計	930,650	1,045,967	998,485	△ 115,317	△ 11.0		
資本的 収入	出資 金	企業債償還元金	327,622	320,789	361,632	6,833	2.1
		医療機器購入費	2,500	2,500	2,500	0	—
		計	330,122	323,289	364,132	6,833	2.1
合 計		1,260,772	1,369,256	1,362,617	△ 108,484	△ 7.9	

他会計補助金等は 1,260,772 千円で、前年度に比べ 108,484 千円(△7.9%)減少している。  
このうち収益的収入は 930,650 千円で、前年度に比べ 115,317 千円 (△11.0%) 減少し、  
資本的収入は 330,122 千円で、前年度に比べ 6,833 千円 (2.1%) 増加している。

## 6 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	29年度 A	28年度 B	増減 A-B
1 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	91,694,544	△ 129,074,521	220,769,065
減価償却費	546,659,442	1,014,712,318	△ 468,052,876
引当金の増加額 (△減少)	8,910,000	△ 13,071,402	21,981,402
長期前受金戻入額	△ 16,601,354	△ 32,121,437	15,520,083
固定資産除却損・売却益	3,123,615	2,678,107	445,508
受取利息収入 (△)	0	△ 1	1
支払利息	205,655,081	225,336,926	△ 19,681,845
未収金の増加 (△)・減少額	25,542,579	136,483,504	△ 110,940,925
未払金の増加・減少 (△) 額	24,637,833	△ 46,127,144	70,764,977
たな卸資産の増加 (△)・減少額	7,854,149	△ 9,983,398	17,837,547
長期前払消費税	26,728,463	26,728,463	0
その他流動資産の増加 (△)・減少額	△ 89,725	31,690	△ 121,415
その他流動負債の増加・減少 (△) 額	4,479,241	△ 4,738,985	9,218,226
小 計	928,593,868	1,170,854,120	△ 242,260,252
利息受取額	0	1	△ 1
利息支払額	△ 205,655,081	△ 225,336,926	19,681,845
営業活動によるキャッシュ・フロー	722,938,787	945,517,195	△ 222,578,408
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産取得・建設改良実施額	△ 114,117,600	△ 247,090,098	132,972,498
固定資産取得・建設改良実施に係る補助金等収入	0	0	0
固定資産売却収入	0	495,636	△ 495,636
一般会計からの繰入金	330,122,000	323,289,000	6,833,000
投資	△ 226,000	△ 944,000	718,000
投資活動に伴う前払金等の債権の増加 (△)・減少額	0	0	0
投資活動に伴う未払金等の債務の増加・減少 (△) 額	35,267,260	△ 1,853,356	37,120,616
投資活動によるキャッシュ・フロー	251,045,660	73,897,182	177,148,478
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入による収入	0	0	0
一時借入の返済による支出	0	0	0
建設改良等に係る企業債償還による支出	△ 1,064,951,807	△ 1,043,008,534	△ 21,943,273
建設改良等に係る企業債による収入	67,700,000	168,200,000	△ 100,500,000
財務活動に伴う前払金等の債権の増加 (△)・減少額	0	0	0
財務活動に伴う未払金等の債務の増加・減少 (△) 額	155,890,762	0	155,890,762
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 841,361,045	△ 874,808,534	33,447,489
4 資金増加額	132,623,402	144,605,843	△ 11,982,441
5 資金期首残高	1,291,952,646	1,147,346,803	144,605,843
6 資金期末残高	1,424,576,048	1,291,952,646	132,623,402

## 7 経営分析

分析項目		29年 度	28年 度	27年 度	全国平均 (28年度)	算 式	
構 成 比 率	固定資産 構成比率	%	76.1	77.6	79.1	74.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
	総資産の固定化の度合いを表すもので、比率の低い方が望ましい。						
	固定負債 構成比率	%	76.7	82.9	84.9	56.2	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$
固定負債と総資本との割合を表すもので、比率の低い方が望ましい。							
自己資本 構成比率	%	3.7	△2.6	△3.9	30.5	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$	
総資本のうち自己資本の占める割合を示したもので、比率の高い方が望ましい。							
財 務 比 率	固定比率	%	—	—	—	245.8	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
	固定資産と自己資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。						
	固定資産対 長期資本比率	%	94.6	96.6	97.7	86.4	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
固定資産と長期資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。							
流動比率	%	122.2	132.6	129.5	188.3	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	
企業の支払い能力を見るもので、この比率が大きいほど支払い能力が高いとされている。							
回 転 率	自己資本 回転率	回 転	—	—	—	1.9	$\frac{\text{医業収益}}{\left( \frac{\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}}{2} \right)}$
	自己資本の働きを観察したもので、数値が大きいほど資本が効率的に使われていることを示す。						
	流動資産 回転率	回 転	2.9	3.0	3.0	2.3	$\frac{\text{医業収益}}{\left( \frac{\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産}}{2} \right)}$
流動資産の使用利用度を表すもので、数値が高いほど運用形態が良好なことを示す。							
未収金回転率	回 転	5.9	5.6	5.5	5.5	$\frac{\text{医業収益}}{\left( \frac{\text{期首未収金}+\text{期末未収金}}{2} \right)}$	
未収金の回収度を測定するもので、数値が高ければ未収金の回収速度が良好なことを示す。							
収 益 率	総収支比率	%	101.0	98.6	96.9	97.6	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
	総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであり、比率の高い方が望ましい。						
	医業収支比率	%	96.2	94.3	93.1	91.5	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
医業収益と医業費用との割合で営業活動の能率を表すものであり、この比率が高いほど経営状態が良好なことを示す。							
総資本利益率	%	0.8	△1.0	△2.2	0.5	$\frac{\text{当年度経常利益(損失)}}{\left( \frac{\text{期首総資本}+\text{期末総資本}}{2} \right)} \times 100$	
経常利益と総資本との割合で、企業全体の収益性を表すものであり、比率の高い方が望ましい。							

分析項目		29年度	28年度	27年度	全国平均 (28年度)	算式		
その他	医業収益に対する 職員給与費の割合	%	52.6	49.7	51.5	55.3	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	
		医業収益に対する職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。						
	医業費用に対する 職員給与費の割合	%	50.7	46.9	48.0	48.0	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業費用}} \times 100$	
		医業費用に占める職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。						
	病床利用率	一般病床 結核病床 精神病床 感染症病床	%	76.4	75.9	65.2	75.0	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
				82.8	83.5	68.6	76.4	
				16.6	22.5	24.1	11.1	
				57.1	47.1	56.0	62.1	
				—	—	—	1.8	
		ベッドがどれだけ利用されたかを示すものであり、比率が高ければ利用効率が良好なことを示す。						
	1日平均 患者数	入院	人	306.4	304.2	309.7	328.0	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$
		外来		814.1	859.9	891.8	818.0	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$
1年間を通じての1日平均患者数であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。								
患者1人1日当たり診療収入	入院 外来	円	25,340	24,584	23,660	27,462	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年間延入院・外来患者数}}$	
			51,073	51,718	48,901	51,198	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$	
			10,855	10,238	10,457	13,339	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$	
	患者1人1日当たりの平均の診療収入であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。							
薬品使用効率	投薬薬品 注射薬品	%	76.2	76.3	88.8	91.8	$\frac{\text{薬品収入(投薬分)}}{\text{投薬用薬品費}} \times 100$	
			72.0	64.1	68.1	84.2	$\frac{\text{薬品収入(注射分)}}{\text{注射用薬品費}} \times 100$	
	薬品費に対する薬品収入の割合を示すものであり、比率の100%を超える部分が利益の大きさを示しており、この比率が高ければ収益面で良好なことを示す。							

- (注) 1 各比率の算出方法及び計算の際に用いた基礎数値は、総務省自治財政局編地方公営企業年鑑の例による。  
2 全国平均は、総務省自治財政局編「平成28年度地方公営企業年鑑」の数値である。  
構成比率から収益率までの項目は、経営主体が市である公立病院の数値である。また、その他の項目は、400以上500未満のベッド数を所有する公立病院の数値である。  
3 自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益  
4 総資本＝負債・資本合計